

改正
新版

初學古法揮毫字藏

孫 目

每慶狀	倉狀	樓絨狀	手習狀	今川狀
月返狀	大板狀	月返狀	管我狀	態管狀



願書目次
 本署願書
 存券勅進帳
 正号配簿文
 補正成簿書
 百官名
 東百官
 大日本國
 永字の八法
 法人公得州
 右書初得券
 七夕海防券
 男女姓名名簿
 福名券文系
 示物券文系
 近江系得券
 法辨名簿
 去系偏冠券
 士達工高乃圖
 十二上之圖
 已上

石榴弁神



天満大自在天神



○ごらるる神
 我天の由りしをいふにむかひと
 とをいふにやんその時てうたふり所を
 自らたふらふありあふふのうたは性
 坊ててまはに何れも初命のいふこ
 だをたふらふ者いふにむかひとむかひと
 たりたりとていふにむかひとむかひと
 のうたは性坊ててまはに何れも初命のいふこ
 だをたふらふ者いふにむかひとむかひと

○天満大自在天神
 天曆元年七月小神降りてお井の近
 の天満に降りていふにむかひとむかひと
 の松のこゑをいふにむかひとむかひと
 一方むかひとむかひとむかひとむかひと
 らぬにむかひとむかひとむかひとむかひと
 女虎のうたは性坊ててまはに何れも初命のいふこ
 だをたふらふ者いふにむかひとむかひと
 おいひとむかひとむかひとむかひと
 わらひとむかひとむかひとむかひと
 その教中をいふにむかひとむかひと

本署義仲願書



帰命頂禮
 八幡大菩薩日
 城朝庭之本
 累世明君之
 累祖也乃守
 室祚為利蒼生
 此之身之金谷

今川了俊五良
 仲秋制詞條々
 一不知文道之成乃
 一終不得勝利事
 一好精奪道在樂
 一益教生事



排之所之控麻
爰頃年以來有
平相國者後領
四海協亂為民
是立佛法之怨
王法之起義仲
苟生弓馬之家
終結箕策之塵
案彼暴惡不能
顧思焉 運於
天道拋身於國

家祇記義兵
欲退凶 迄嗣
我治合為家之
陣士卒味以發
勇怕匪在斯今
一陳拳旗於我
場忽拜之所和
先社檀機威純
熱的凶流殊戰
無能飲茲之淚
翻酒如深肝就

一 小色輩不道亂的
一 令行死罪事
一 大科案乃目以負
一 沙法攻害先人子
一 貪民令沒傷神社
一 極案花事

一 先祖之山家古塔以平
一 破壞莊私宅事
一 君父在君人忘都
一 忠孝微事
一 將公勢重私用不
一 忘天道働事

石大

中曾父前臨矣
當我家降附為
宗為民族自歸
君於輔老象來
乃其門系若無
乃致我仲為之後
亂傾首多之今紀
世大切發必以嬰
史露測巨海怒
輔卿翁 東院
然為國為君白

一不存為下長惡
一不正清四時率
一我如如片下傲天
一又司為回前子
一企道亂為悅以他
一熱樂為事

紀之全乃方為
家不志志
神威在定憑我
悅伏伏願真我
加威靈神方決
猶一時退恐四方
我打一再祈以實
意其終成加護
先使方人端相手
源義仲
敬白
嘉永二年六月十日

一失化人理汝濫
一坐幕為權威事
一不知方方限或
一道分或不足子
一媿賢居宅佞人
一彼非分沙法事

西塔衣苑坊
辨受勅進帳

史傳以大成教
至秋月張涅槃
雲生死長夜永
夢不可驚人愛
中須帝中府濟
名者身辨
聖武治皇帝別
寂宅好 哀慕
難止涕泣荒服



漢黃土執思若
陰建立為應形
佛箇經靈場也
絶句後系坊堂
源勅進諸國一
紙中積有初之
案忘世世後無

一非道而不以善為富正
路之衰不可輕奉
一長酒宴控無務
負忘家職事
一迷己利根執万
獨如化人事

一人來則穽虛病
不能對面奉
一好獨味不能施
人之隱居奉
一或具在裝衣已過分
而後下見若多

此樂尚來分生
應教千蓮花上

若乎

向命誓首敬白

東大寺沙門

正号紀法文

敬のり紀法文

上梵天帝釈曰

大天王熾魔法

五六道具宿泰

山尉天下地

一出家沙門尤攻焉

蒙可心於義事

一貴賤不存因果之

乃理恒安樂事

一於方圓之法圓令

於法會諸人事

神宮法

富士清間

三那合卷山

城鎮守

祇園加

八幡之

平野總

國大小

身清

結名氏

結名氏

在法會之常有結名氏

馬合我者乘武士乃

不殊同者之執刀使才

一也出入守國事無學問

向本不成政道之名實也

經之外軍書等不為

考討手記
 此事仍於
 志世哲云
 得來世名
 罪阿鼻者
 仍白記法
 文如
 併

正尊

文治元年九月

棟正成金剛山
 居間之發書



一昨今日
 万物一體
 可病生
 一理と見
 心光

後之初少之時
 彼初為友
 方園之
 實
 賢
 中

君
 者
 不
 初
 一
 四

一人の我が身を
 一人の猪の尻
 一人の電の光
 人の熱の火
 と知れ
 上に滴るひた
 と界しむ
 一人の城の城
 我身の北の家
 とくくくく

道難成就才一生空家
 嫌念我の殺心とに嫌人
 由るの多の戒重之定可知
 我人の多の老の病群集来
 初る思長は短程人味之方
 今案時已人の心知念心也

一人の城の城
 莊里内より
 我身の北の家
 一城を城
 一若くは
 一若くは
 一若くは
 一若くは

独門の城市一程の心
 理非道と云一旦空下
 道而念氏謀略と案物
 財と欲悲族の故法意
 五毒持の如切院分
 勿礼下根任古人今

古大

一人乃善惡を
 念地よきも
 己が教地考ふ
 一物あり理
 と初る
 怒りて理
 時一電一
 其北と云
 國の為人
 怒りて死と
 禁はし

云云法憲法は海法を云
 今も大抵日月如照法州
 本國七道皆亦外極山海
 在力満ふ被官本三層然
 思悲尤得遠無然人
 下民任力法均願之智友

一我に仇あり
 教せんを
 如れ
 一珍編も毎日
 向へ味あり
 遊も度あり
 遊ハ樂なる
 一奇事は異物
 り也先
 一情乃る
 何れせん

才覚人偏り初上下
 法批判の多し唯佛
 救死生の法有外如
 法法辨解不立於
 道法問事仁義礼智信
 関是危以道行死之

寸をうりて
 孝の法を述
 其の子に成
 て良とす
 一 古の骨乃
 切通るを
 若しは教て作
 と好むべし
 一 獲免れ乃若
 と良こそ必
 毛と飾るべし

古州
 九
 之非擇非我今死罪則之
 歎深然名固果之適之科
 才忠不若能分別之有
 當得子考委之益益之働
 構私用可馬之道無愛用
 不材特人数審究仍取

一時にほひ
 出と成初ら
 偏み重
 加つて不
 人皇二十代
 敏達天皇四代
 正孫左大臣橘
 朝臣法足公孫
 捕判官多門共衛
 正成

正成
 蘭
 之論者法家之自先親知
 仍分隨之相遠之時之依
 之人心持振威勢多分也
 既生之知命我乃家法取
 故不持兵士不能不
 儀偏可也惜汝才也仍

百官名畫	右政大臣	左大臣	右大臣	內大臣	准大臣	大納言	中納言	宰相	中將	少將	侍從	四品	諸寮	中務	式部	兵部	刑部	官內	大藏
------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

書如件

永享元年九月十六日

初登皇山寺為教訓書

有失越者不棄人命殺害之

其故如何初乞乞是書定出

之時名也為武士之戰場所



內苑圖書	繪殿	內記	外記	監物	舍人	內匠	大學	雅樂	主計	主稅	軍人	玄蕃
------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

近如人約軍之役奉後

如衣具也身机若如城

郭者若打物也若刀長刀

也文字之書浮若定

傳衣衣士一人也人若勢楯

籠城郭亡人教書若以

織部	大炊	左近	將監	兵庫	右京	右馬	右衛	右衛	大膳	宗女
主殿	掃部	右近	木工	左京	左馬	左衛	左衛	修理	主水	彈正

大車(一) 隨從(一) 左衛門(一) 右衛門(一)
 下知(一) 代(一) 取(一) 北(一) 牙(一) 牙(一)
 漢(一) 報(一) 春(一) 廣(一) 以(一) 技(一) 持(一) 事(一) 以(一)
 第(一) 之(一) 右(一) 京(一) 左(一) 衛(一) 門(一) 右(一) 衛(一) 門(一)
 手(一) 指(一) 掌(一) 事(一) 間(一) 少(一) 人(一) 在(一) 左(一) 衛(一) 門(一)
 如(一) 向(一) 款(一) 也(一) 打(一) 物(一) 以(一) 裝(一) 箱(一) 取(一)

主膳	勘解由	帶刀	鞆負	東	物集	治部	囚獄	右門	右中	右内
主馬	市正	藏人	百友終	百官	民部	數子	左門	左中	左内	仲

狀(一) 齒(一) 之(一) 取(一) 飲(一) 一(一) 知(一) 行(一) 也(一) 依(一) 文(一)
 字(一) 一(一) 勵(一) 辨(一) 力(一) 尤(一) 智(一) 藝(一) 能(一)
 精(一) 人(一) 者(一) 法(一) 人(一) 貴(一) 之(一) 事(一) 觀(一) 合(一)
 非(一) 亦(一) 讀(一) 取(一) 之(一) 滿(一) 苑(一) 七(一) 珠(一) 乃(一)
 室(一) 之(一) 行(一) 為(一) 任(一) 事(一) 者(一) 一(一) 表(一) 亦(一) 力(一)
 疎(一) 學(一) 不(一) 用(一) 一(一) 事(一) 者(一) 其(一) 其(一) 亦(一) 行(一)

浪江	清士	求	清	波	門	求	丹	久	右	要	小	丹
求	清	波	門	求	丹	久	右	要	小	丹	相	馬
求	清	波	門	求	丹	久	右	要	小	丹	相	馬

非此辱師因父母腐之
 年園老來清梅香之初
 雅時不語師命之忠款
 未練方一而逃下奇不學
 字一文符名也字以之如
 得令出此難能每有亦

一	學	矣	柄	疾	矣	典	籍	梅	干	至	珍	精	殿	志	深	左	活	此	面	丹	禮	形	馬	郭
一	學	矣	柄	疾	矣	典	籍	梅	干	至	珍	精	殿	志	深	左	活	此	面	丹	禮	形	馬	郭
一	學	矣	柄	疾	矣	典	籍	梅	干	至	珍	精	殿	志	深	左	活	此	面	丹	禮	形	馬	郭

面然之矣智故於所
 交乃人排誘也初又向款
 陳或上從病也之此食我
 場者其能辱一期之間難
 難者自於其家矣而領之
 身立而為不特表也之款

占大

外学 其柄

僧官 之名

律師 相商位

僧都 日

僧正 日

法橋 上人の位
法衣の位

法眼 和名の位
行儀の位

法衣 大和名の位
カクに有る

持僧正 奉儀の位

正僧正 中納言の位

大僧正 大納言の位

大日本國畫

又畿内 六箇

山城 八 大和 七

河内 七 和泉 七

摂津 七

東海道 十箇

伊賀 七 伊勢 七

志摩 七 尾張 七

美濃 七 遠江 七

駿河 七 甲斐 七

信濃 七 相模 七

五法今少人逢之 然問人義

与道智是 以同奉佛放初

学初心之 是童童不之有洛程

抛万奉之 以手指学高也

物達之 云云道者揚名也

下取法 書海有身 智慈徒

有云乃 寺上者 亦代名

也 大略 汝以 魏有也 少人

下智 法道 藝能者 仍教

刺書 以件

腰 絨 杖

源 義 經 也 者 上 之 名 也

武藏	安房	常陸	東山道	近江	飛騨	上野	陸奥	北陸道	若狹	加賀
上総	下総			美濃	信濃	下世	出羽		越前	能登
八	九	七	四	七	十	九	上	七	上	四

江攬河以友其一二為勅遣之
 中使傾朝款款為東代以安之
 藝雲雲為秘器也傳之於世
 常如思外依虎以按之於茲
 止莫天之勳功我經之紀功
 數如後乃功也其德者名也勳

氣之間元沈紀後傳案案
 定乃後案者道也言道身之公
 也因茲之沈紀後者案案
 定乃後案者道也言道身之公
 定乃後案者道也言道身之公
 定乃後案者道也言道身之公
 定乃後案者道也言道身之公

周防六長門六
 南海道六國
 紀伊七淡路七
 阿波九讃岐九
 伊豫七土佐七
 西海道九國
 筑前八筑後八
 豊前八豊後八
 肥前七肥後七
 日向六大隅六
 薩摩七

運柩西行抱赤卷世業素因
 西風吹悲淚代以奈也亡父言
 身再延非緣誰令中披
 身之悲歎何來當哀憐
 我輩新中狀後似迷懷我經
 身身法接膚也父母之終

修計二流
 長波二對馬二
 已上六十八州
 永字の八法

側一 永一
 勒一 策一 掠一
八法と一に側二日勒
 二に勢田に遷六日策
 六に捺七は毎八小捺
 一に一字八法乃新目
 成のじ是より七十
 二點とある

我時色古以教活他界向
 我孤抱母懷洋漢卦天和
 國字多動難我牧以來耳目
 時宿安堵思當甲斐安
 存今京和信也難活之間
 德法合流初在也隱身猶

夫れをばいふ人云
 こゝろ打とけておれ
 とて子れはくちりす
 人の心を打とける
 たりけりや男は
 子や嫁にせ理い
 せりせよ子や嫁の
 心を打とけておれ
 かりけりや男は
 かく事る子や嫁
 の心を打とけたれ
 たりけりや男は
 婦にせ理いせり
 けりせよ子や嫁の
 心を打とけておれ

職何事如之乎
 政然令悲源
 秋切因我諸古
 後年主
 室不裏之
 辨野心之名
 在為
 鷲曰古國中
 平竹別不之
 神祇真乃
 隨書在教道之
 紀禮文行
 以江為父
 我

心とちけて何の
 意もなくん
 存す
 たりのみ
 子や嫁
 の心を打とける
 かりけりや男
 は
 かく事る子や
 嫁の心を打と
 けたれ
 たりけりや男
 は
 婦にせ理い
 せりせよ子や
 嫁の心を打と
 けておれ

國者神道之不
 稟神祇禮
 而於他偏貴
 殿廣去之
 他法慈悲何
 復具令達
 高秘計傳
 名禱者
 父老種者
 及家傳
 業花水子孫
 仍國年未

古状

かく頼母たのま一いくも
八は丈さのんちちけりる
たうたう才さい見みへん理り
いい生せい理りせせねん才さい
乃のんんちちりりととるる
一いくく入いりりままを
ににああるる打うちりりるる
ありあり友とも達だはは方かたよ
りり無む理りいい生せい理り
世せ孫そんのの方かたももいい定ぢやう
ふふののししくくたたりりい
無む切きあありりくくたたるるい
友とも達だののちちりりととけ
るるををりりたたるるいいふ

人ひとはは生せいひひ小こ我われれをを
我われれをを我われれににせせるる
法はふををるるいいははららいいが
かかううちちけけるるああり
初はつめめののううちちけけ合あひ
何なにののいいひひががああるるか
是こゝとと和わ合あひひとといいふふ
世よのの中なかつにに是こゝとといいふふが
るる悦えつびびいいははるる身みにに
ああるるはは泰たい平へい此こゝのの代だい
小こ生せい命めいははちちががああるる
ああるるををせせとと悦えつびびをを
のの事ことはは熱ねつ中ちゆう
よよししててららるるにに

愁眉均一しゆうみよくいつ如安寧にょあんじやう不ふ是書ぜししよ
紙併令省略ししびやうしやうりやく年法ねんぱふ案依あんい清しやう
賢察けんさつ忌憚きだん謹しん之し

元曆二年六月日げんりやくにねんろくがつにち 陳義經
進上因幡守殿しんじやういんぱんしゆうだん

義經會狀

謹白しんぱく於義經末孫おの義經のまゝのそん孫出流和そんしゅつりやうわ
之基そのもと道隆みちたか孫多由蒲仲家そんたゆうふちゆうけ家次けいじ
來社きたて隔絕へつてつ父子遠ちちこゝろとほ登のぼ乃の福ふく也なり
七しち在あ國くに孫そん孫そん仁に七しち民たみ百ひやく姓せい等ら
隨したが從したが困くわん遠とほ也なり每ごと多おほ運うん社て撰せん也なり
勅しやく宣せん之し一いつ成じやう時とき也なり用もち此こゝ世よ伏ふし以もつ以もつ

のにおもふやすて
世にたつたに身は
不始をより和合の
中より事法され
ハ先達の徳をま
小うあつたをの地
形と固先奉と松
しつちあつた
仁をかゝるに人
の安宅をり越法
くやまは運ま被
安宅乃ちよりと
ごもたうなるん
くむゆあふ

或時名は海上海上凌風波之
粒切款法首味蘇親聰
青真羅三子三子北之身生
捕太臣敷入子源東種金源
高深氏今替私辱依提
東後之空高純正老勲切

五節向略故事

元日

元日六年のほつり
けし元日の始うれ元
ふとのふ日ハ弟人の
をとりたすのあは
系物のけりも番り
日にあつたせん
とちかふつた水
して井花水とぬ
べく又屋敷の香
くふてせの物ね
ちうい癒疲と病
又まふふとち
むりよふとち

秋兄弟才者思下法何人
只是運存和亦似威前
世之業因何細老切提未
父子頭法子向柱我提老未
下今今生海世北力提提
多難片老法提提提教白

古天

千

らよよいも候
むまよいこ國
上巳

二月一日と上巳と
辰の月をれ巳と除く
日と不祥と除く
あふ今日文飾
と命 桃を酒に吞
ハ病とのぞけを成
くすやけとあふ手乃
むとりちあふしじを
上の巳の日張りらひ
くもあふ上巳といふ
之日と上巳とする事
源の武帝より
まらるとか

文治元年閏四月廿日 義經

進上源右兵衛佐殿

西塔式部卿御拜慶

宣期書拾一通

折着多し時勢多変故雲州

騎瀨山自童輩飛以來不怠

源平

六月六日と源平中
申す源平もいふ
あふれとらひ高瀬
酒とのび又あふ
かして沐浴とす事
ハナ載れし業を如
てあふとす事あり
かす意風あり又
のらに屋敷六月六
日に酒をよむん
死にんこのあま
あふくつ先取事乃
意依たり
七夕
七月七日と七夕と

日夜相殺河津之字況云

利除弊業安んじ徳を去ん

不忠誠を病け於密之秘

法に入定府神を信探令

胎而秘案流大日不之法

尤以人切我自母之徳也

八月朔日とたのみ乃
 初日といふ世傳り風
 義は時田乃と実教
 するに由るといふ
 或は茶葉子とある
 蘇のいともあるにふ

以て後女藤牛の鞍
 雪の教あり今日と二
 聖なるうそは果
 とつね念物とて
 中より作筆はうに
 六色の糸と連ねある
 一と女結とてゆめと
 いふありこれ成乞
 巧真といふ
 八相
 賢仁奉おと若若也奉お
 大將軍末子平若若也書子
 将果若若後深抵領心美
 之知世と宿務都道る今
 之道被達現為二世在様
 以奉ふ祀社と戒令後六書
 之道被達現為二世在様

ておむとの病深茶院
 の比ゆらまはするは
 六條坊の所へ
 中元
 七月十六日と西暦金
 とのいふ又中元ともいふ
 正月十六日と上元と
 七月十六日と中元と
 十月十六日と下元と
 中元の中にあつた又一
 年の中あつたあつた
 ともあり天平聖武
 の比ゆらまはするは
 中元といふ
 九月九日と中元又

大條坊力亡夜仍之西暦
 斬之因因風也之廻生
 馬家祀精負負因院事速
 入洛不揚否道深夜前及
 交天若人合深能浦深能
 即院氣在揚者若若之
 三
 三

年九陽九もつる
 老陽の教みり
 由多し日菊の酒
 その成八葉とつる
 菊の後の秋組
 長来不老とつる
 えんふより脱せ
 又ひちちうあが
 けう菊酒とのみ
 までつるひとつ
 むをまうともつ
 ひるより入とつ
 けてるをたう
 友かこれとつ
 入る白
 収事終

虎乳清服入
 手深手十
 終之追伏
 約平後命
 号副初軍
 十二國人
 行不運
 一日斤

長生殿裏
 春秋留
 春風
 一時来
 誰計念
 今日不
 地福
 和合樂
 皆名満
 天等

時不遂
 氏背快動
 率數万軍
 向初北
 夏と清
 霜の陸
 初張
 魚鱗
 初葉

古大

三

不老門前

日月遲

柳花如力

條定動

池有波文

水尽閑

君が代々

あまのやちまた

いそぐあそび

袖もあそ

むまびり

陳代本名智略物次未金

上生海月時夜赴西海初教

手為波原樹袖襟分龍唇批

奇行終日成禁會常古

或王遠美平野之軍年存來

物終已之西流青負任被達

こほせると

まゝのたの

あまのやちまた

いそぐあそび

袖もあそ

むまびり

あまのやちまた

いそぐあそび

袖もあそ

むまびり

本意如提本依道得之遺
恨後老名數の仍亦故美心
兄弟不和之名故海之隣結
句如加若上霜滅他如數子
年滿改日以月來交身之流
教代不跡をの提若之信心

衣曳流 庭夜濕 竹烟漫 月欲消 朝花激波 且遺 公初行月 欲乃婿 今宵織女 渡天河 繼月微雪 一仙羅

古壯
 荆骨車回范舞竹余多
 流浪因花如大條池小路
 浪重七位入道竊時者八
 尺二分身來持荆角字
 二疋流落花上乃我志雲就
 香軒藏塔踏板舞矣志本

天の川 ことわらぬらん かしらども さまさあまを くにまをまを 年じら ありはすれ たちをこの ぬらよあうずぞ すぐわうける 焚りえん ころぞほき 七夕の 中しにてび ありふ

胡笳此款若然物中深余平
 向荆波如余食二道文為
 身報空明矚身齧名陰
 跡波天高踏波地厚不荒
 踏波如道折折首齊書
 富樓の川有秋降の探道也

男女性名類字

木	平	義	武	茅	火	久	老	歲	飛	中	彗	彗	彗
文	粉	伴	梅	濤	助	角	嘉	礪	菊	忠	理	長	傳
檣	門	卯	百	福	兌	九	器	宜	五	友	利	德	長
茂	沐	兵	引	恭	儀	岳	虎	金	元	右	仁	六	六

貞	金	和	字	乙	好	水	新	宗	小	我	羽	太	以
西	伊	加	友	又	毫	治	若	甚	勝	政	大	字	以
仲	率	与	安	恆	為	七	清	庄	四	怒	生	之	以
務	一	一	態	笑	務	市	佐	三	作	終	之	以	以

也須改有中外橫按人道
 文之能上聞私之運天命也
 忽感汝汝肝之於道以也
 子彼標標數日今我衣以絲
 子星也古為以色古祖須肥
 之軍管也古我汝汝貞女不

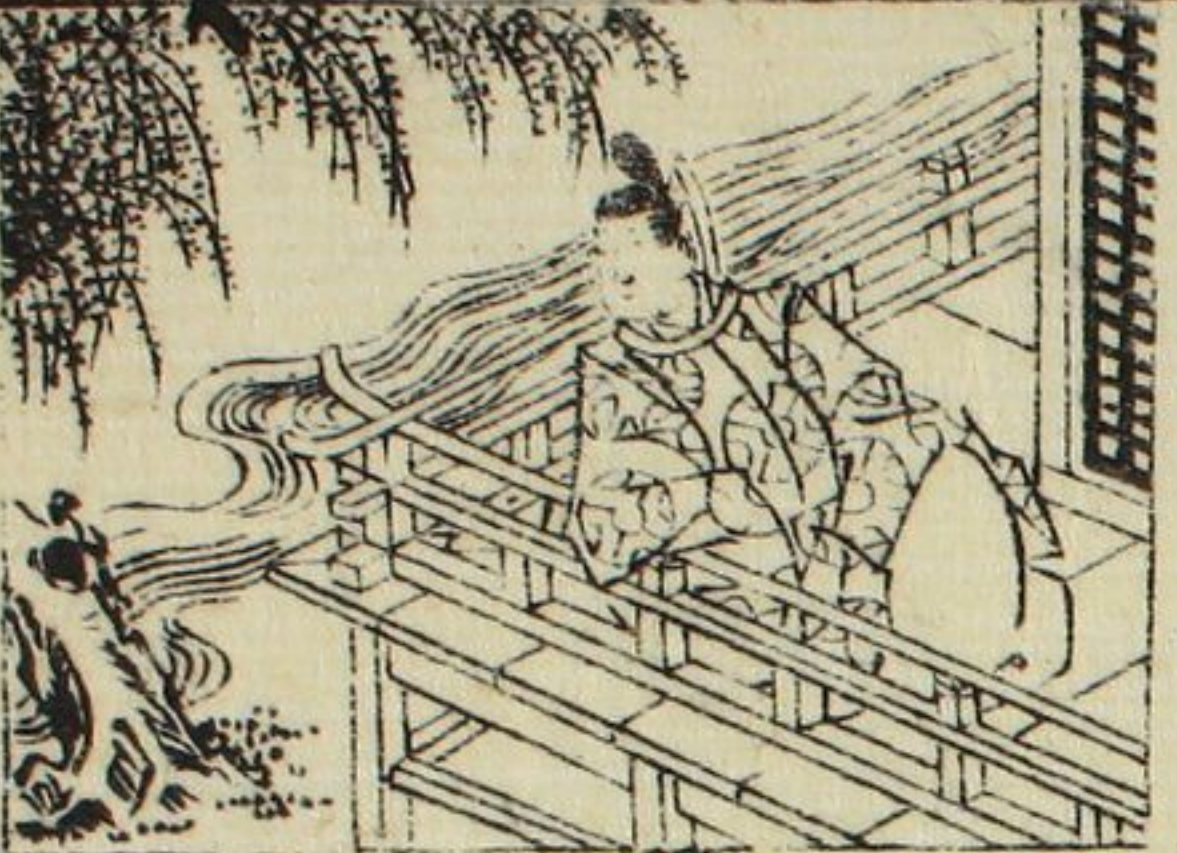
太極生石如文
 字之之之類
 以之之之之義

古光

文之能上聞私之運天命也
 忽感汝汝肝之於道以也
 子彼標標數日今我衣以絲
 子星也古為以色古祖須肥
 之軍管也古我汝汝貞女不

謠名寄文章

治於神代の志
しこて八島に波
も静よそを戸
生るうよひとも
軒揚の柳ふ初音
しこて四方はき
わ下し海ふ光り
加屋く玉乃井
の庭おむらゝぬ
糸清く素を柳



が枝揚りはうり
菟戸の市あ
よく人松風を
ふ勢いよそい
公の浮ふや友
すじ此契茂川下

古狀

足あまた波仁社
保徳志流の第
欽今日并今揚
作清代老也
右道の板金寄
文活今子国
月廿七日

楚台送状

直實襟の音不
今山天の美玉
秦宮臺の丹
負月娥忘忘
玄常還の春加

いひ成さうりし
杜若班女が
き風ましく
を新田志紅系
猪栝授か
女帝もふゆ
急生が邯鄲乃
紫苑をつまぬ
君が代のおくれ
のよ來れぬ
あふりふふ角

後雲戸下將鏡夜夜夜
死過時能也實是月法氏
姑の泣き声も寂れ老多勢
是若老勢之樊吟却る情
養由藝子之安也実馬産
生ちり馬家也深浴也執

田川のち柳長
登之とを松白
舞のりも小貴
樹く人小ゆり
の幕異被
おそ紀妻れ日よ
よ我わひひ
孫本や天放乃
若もさ妙小若
初香小うは拍
子う小陸也と

悲歌羅夜夜夜夜夜
寂寂之寂夜夜夜夜夜
集也若夜夜夜夜夜夜
夫拔劍深植身命夜夜
沉沉也西夜夜夜夜夜
家面目也夜夜夜夜夜

古壯

夕の霞小江にけ
君や揚を妃乃
舞の羽衣くま
かつ肌をわ右
道むら袖乃三
梅清行れまの
こみ清もまひ
の城をせめくま
まの鶴鶴を
おも敷望よ茶
そひていふ家

古井
中津名知唯下給中今於也
実香香喜提為由頻在
中間計以押波山首作
年此痛若し君之志事
結無源秋忠下石緋其深
有成悲款善随松毛北送

家小百菊の心ハ
ふれ小園ちやうら
ま移初と乃望
と無小町のゆき
にあよと教政と
まよりていつけ
る餅のまは色
提く千巻足巻
せぬ巻く巻
めてきく
久
福文素終

石火
縁何生切生死世成一蓮身
是るふま順縁式松初不深
后比日奉弟法普提若之
虫穿中叶信実音海内集
隈若弟以以熱花酒之
也披露者也誠心澄之

品物異名抄

魚腸

有舞

鐵羅打軍

鐵羅打軍

鐵羅打軍

鐵羅打軍

鐵羅打軍

鐵羅打軍

鐵羅打軍

鐵羅打軍

虎班

尾海

龍鱗

龍鱗

龍鱗

龍鱗

龍鱗

龍鱗

龍鱗

龍鱗

龍鱗

秀水守子月日丹津

追上伊佐美年日在龜野殿

徑直返狀

今日七日於揚州一谷

數日死骸并生物送後

早出花洛故以各法源為

海波上味本危運命奉

罪難言又有殘陽上何

度之病中只生者必滅

古指老少不定者亦事

隨我親成子奉前也

約滿秋名品子羅維

扇 高雀 維尾

九花 白羽 恒純

鳳翼 輕冰 冰純

鸞 鸞 鸞 鸞

菱花 鸞 鸞

徽 鸞 鸞 鸞

過雲 柯亭 柯亭

鸞 鸞 鸞 鸞

室 梅 阿 桂 家 兒

孔 方 是 伯 琴

相 孫 相 志 雲 象

素 相 宜 和 風 鳴

廿九

若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝
若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝
若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝
若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝
若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝
若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝
若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝
若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝
若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝
若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝 若忠若孝

杖 考 考 考

杖 考 考 考

杖 考 考 考

杖 考 考 考

杖 考 考 考

杖 考 考 考

杖 考 考 考

杖 考 考 考

杖 考 考 考

杖 考 考 考

杖 考 考 考

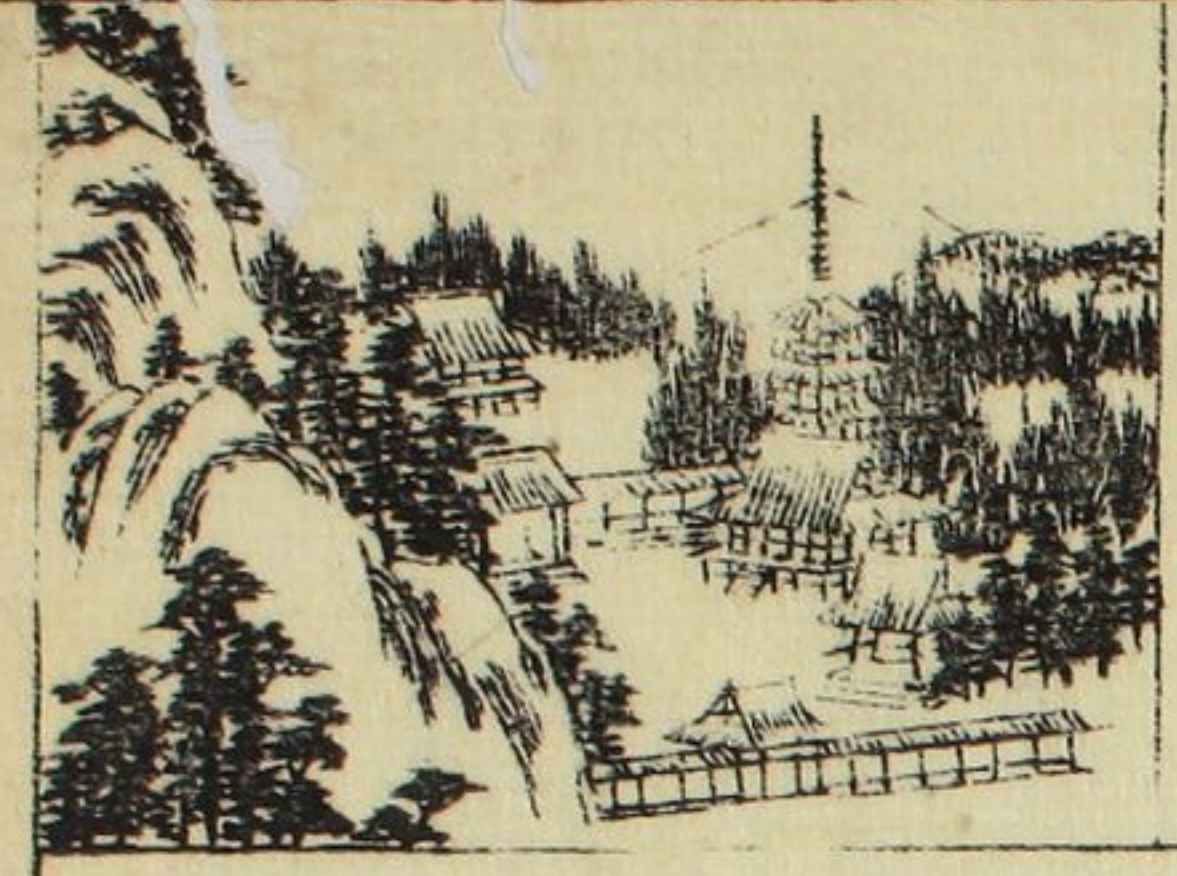
杖 考 考 考

由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少
由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少
由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少
由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少
由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少
由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少
由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少
由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少
由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少
由 汝 傳 承 未 少 未 少 未 少 未 少

棋盤 棋 棋 棋

及 六橋浦
 雙 雙鳥首後
 珍 瑤馬風華
 下 下 下 下
 翠 翠 翠 翠
 令 令 令 令
 画 画 画 画
 玉 玉 玉 玉
 香 香 香 香
 錦 錦 錦 錦
 異 異 異 異

生之三月及此向來又氣節內
 相若物非是也道若君之李
 清人之式一門風雲皆拾
 况也悲歎乃為清由朝古
 今未考其例書身是之筆演
 不願下若其深之憂海



遊 遊 遊 遊
 之 之 之 之
 湖 湖 湖 湖
 昏 昏 昏 昏
 處 處 處 處
 十 十 十 十
 入 入 入 入

還之清進剛之未來永退
 被控之字去在方端改多歌
 尽等波傷奈之思漢之
 壽永之字二月十日
 然有次兄弟
 曾我狀

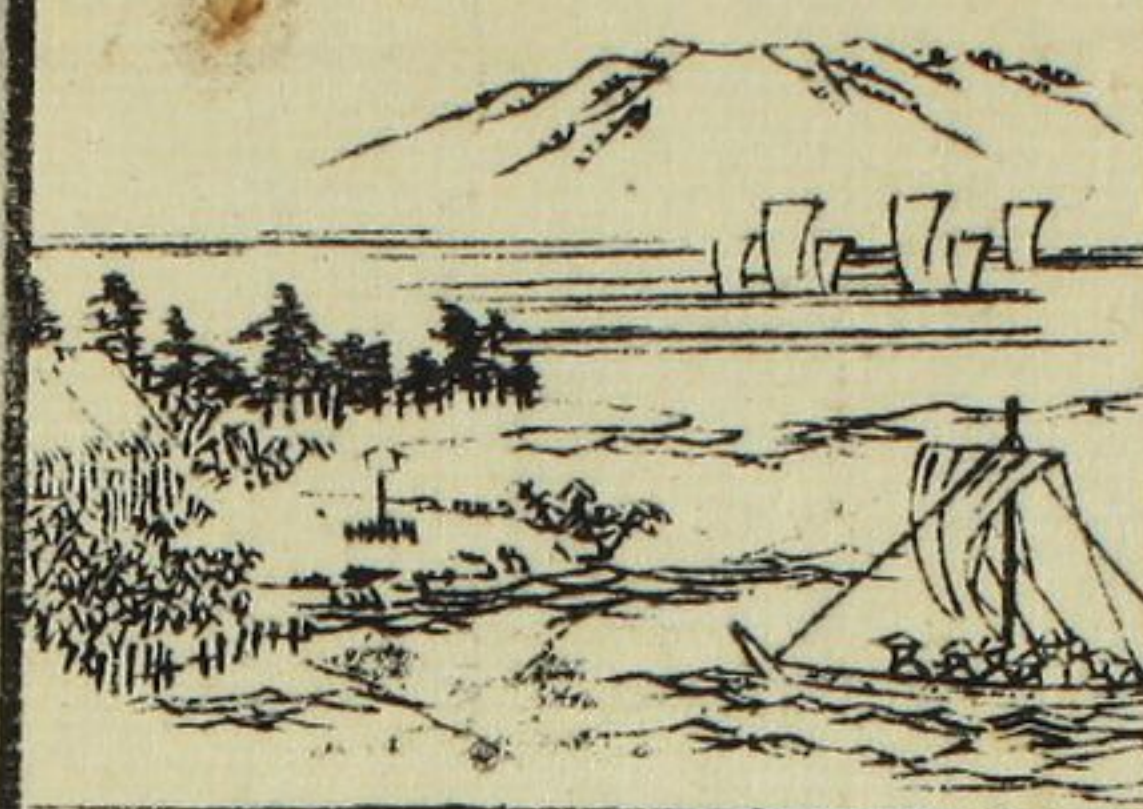
矢橋の帆

約米熟白帆箱
幸若容紅西又東
幾方用帆瑞去後
呂公業連一盃中

去帆引てお出

矢橋舟 原の

おの風 うゝ家
おひのす



今月廿八日夜於河上野之
狩場之陣着我十部花袋
日奈村致巧深敷押寄酒
所之陣住之圍役人及
左衛尉祐經使兼五人
右備之長及内被遣之也

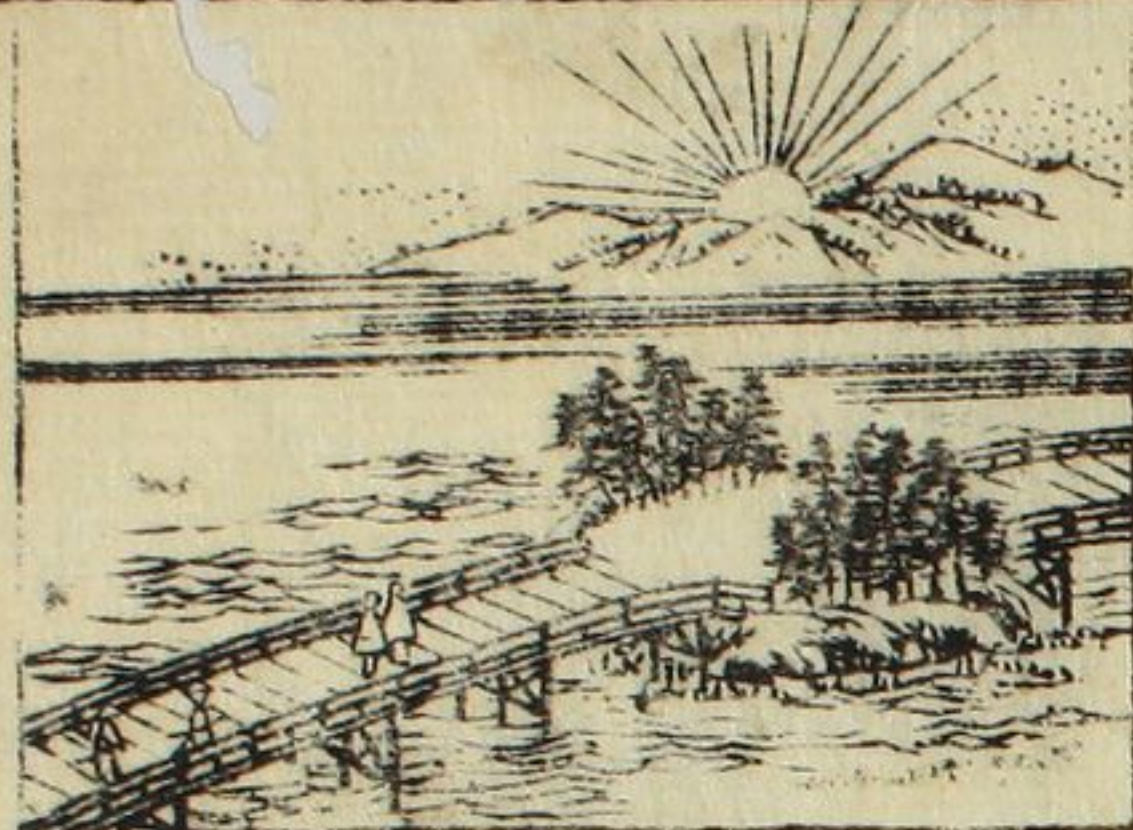
濟田夕照

州有風帆竿夕陽
夕陽人彩与橋長
勢田曝網在日月
一色江天亦系光

無春のれりふをく

中日のこゝれ

勢田のあうれ



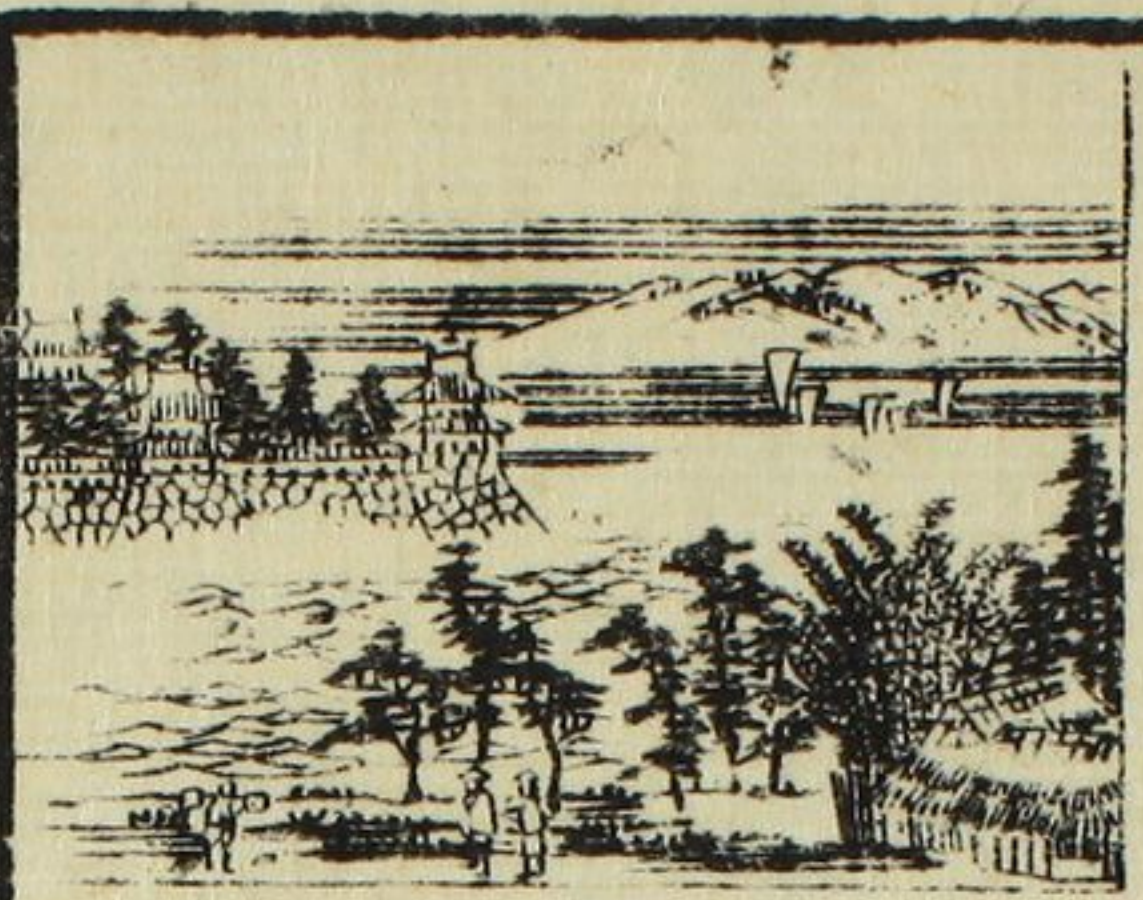
以奇怪之次第之仍其
其乃沈沈舍兒小沈和舍
才神陣坊内也之多有其
因不台昨日之社自進之也
也仍之執達如件
建之深年分内曾平之京時

古状

三十五

粟津晴嵐

此處風景甚佳
吹雲吹雨似相狂
此處所有一草一木
皆上閑勝景也香



此處風景甚佳
吹雲吹雨似相狂
此處所有一草一木
皆上閑勝景也香

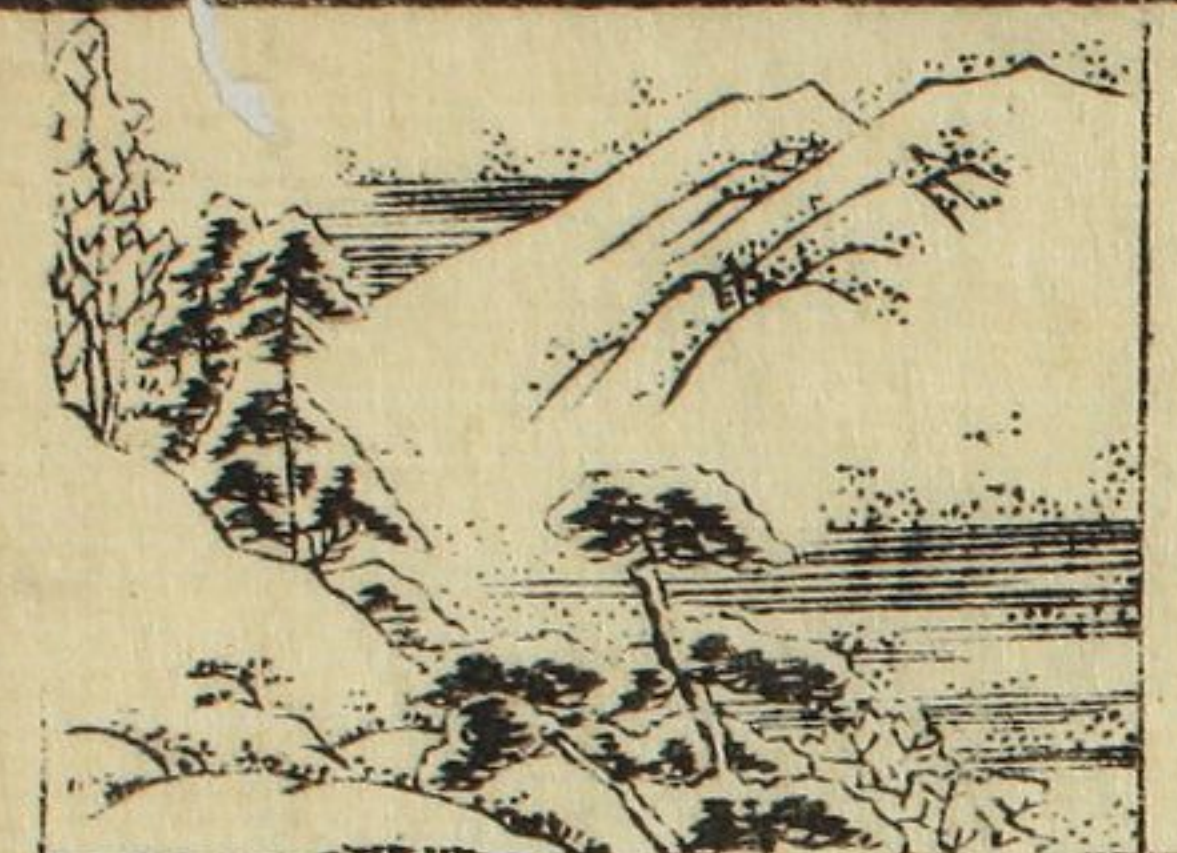
為我公孫友

回返狀

去晦日奉教書本月旨
至來隆白持人任流押
小次希祥所坊等已奉
小次希七奉教書後由家

比良善堂

吹入雲兮飛入深
比良嶺岩若江色
將舟穩探無何
竟化刺溪一橋為



此處風景甚佳
吹雲吹雨似相狂
此處所有一草一木
皆上閑勝景也香

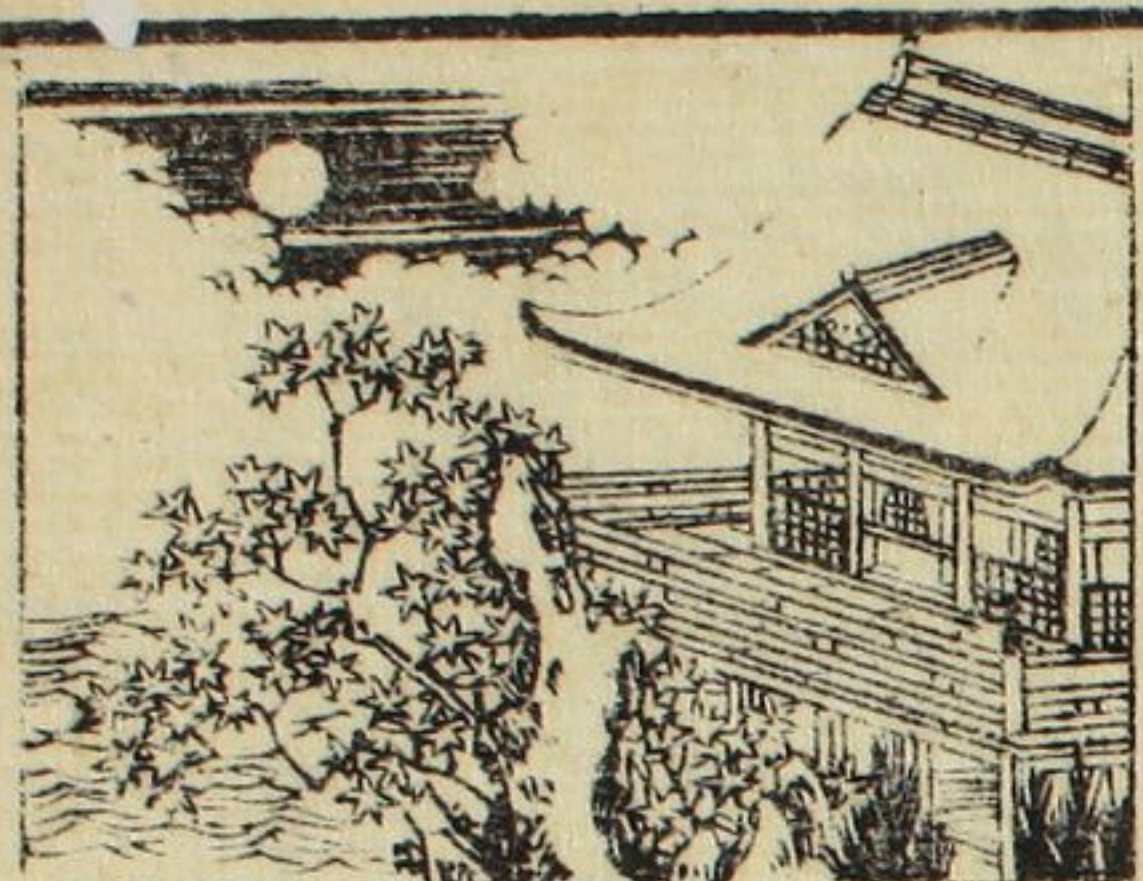
及以格別以時傳者言言以
祥所坊去流人言為不舒
方以回不及石進之以以此
名能言乃通由山以地之
六月六日為我公孫某
進上提束奉之友

古大



田原
 秋風蕭瑟
 吹落葉
 囊沙宵水
 於荒孔明八陣圖

又坂進伏
 今度乃所相市
 誠延一香
 人卷城之用
 先年秀
 少補勅進公



石山秋月
 秋風蕭瑟
 古木回窓
 吟沙紫
 不山や子月の
 うみてる月れと
 わうしもはたを
 かなあしねは時

園東不後時
 野合我切
 追掃諸
 生捕石
 東初若
 其初の

古状



庭跡夜雨
 秋光如露
 松風半化
 半化松風半化
 秋の夜雨 余の
 庭跡 夜雨
 秋光 如露
 松風 半化

故得如緣者之間即命之意
 以知還之心深教業端所以
 弁如覆之車能法一城狹
 獨字唐風陽之波如鏡鏡
 可度及出陳之印時踏落勿
 秀教首事之也理也如好

法	禪	名	ぶ	じ	長	春	宗	表	宗	表	順	佛	可	正	深	元	俊	久	信	公	宗	宗	教	老	禿	深	津	常	味	柳	春	自	微	似	春	毫	似	似	春	溪	波	養	春	了	因	宗	因	榮	安	三	春	溪	安	三	春	飛	蓮	冠	春
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

長十九寺

人野の馬友

同返状

芳名奉命披財命の社法儀
 難教板脚の承刻の事
 此白文人論秀教及平廣

桂	泰	終	風	探	素	飛	撫	休	歲	祐	光	春	宗	五	葛
登	寂	古	作	家	公	信	看	熱	宜	益	考	夕	智	冠	冠
了	曉	茲	總	狹	家	家	就	似	似	似	似	似	似	似	似
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山

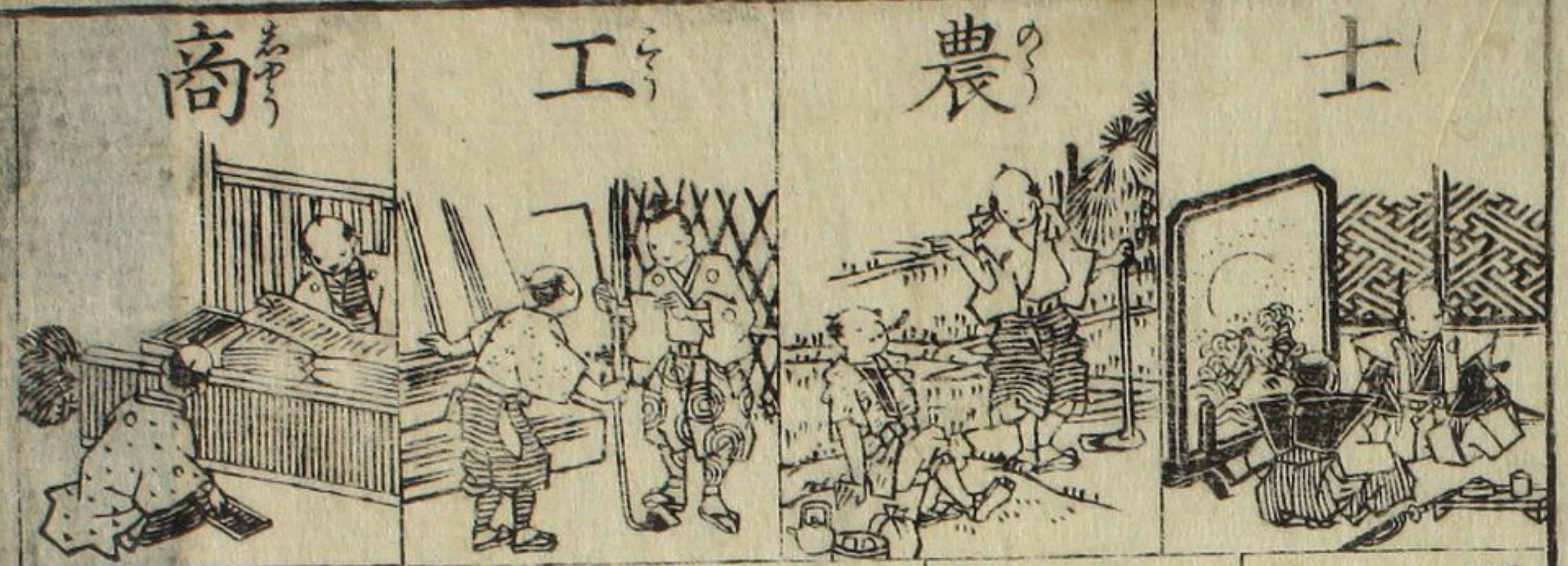
天下無不覆之者曰不復名
 數世之紀法又古率不可
 有紛紜矣先多而後法
 少補牙之必受其難後天
 下不運之不通者其法也
 其法之謂以制秀於世也

真	草	偏	冠	盡	什	什	和	和	和	和	和	和	和	和	和
什	什	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和

極水所切也為制別命
 表重者何前以未法也
 忘厚其意者教不究行
 因成孤今又之付也人
 及是非以四一誠之引
 日古機切事去其法不可

王	馬	耳	東	骨	言	予	方	火	シ	川	ノ	尸	シ	走
引	舟	田	身	小	行	不	豆	子	巾	戸	戸	戸	走	走
引	舟	田	身	小	行	不	豆	子	巾	戸	戸	戸	走	走

面目若湖白丁天宮院
 神靈之祀史有之及父
 子之為命亦危者之存也
 一我之病以是道後云
 慶長十九年 秀賴
 有狀攝十一編終



文政十戌子歲求版
 天保四癸亥歲再刻
 嘉永元戌申歲三刻

書林 玉山堂 山城屋佐兵衛
 江戸日本橋通貳町目

鐵身
鐵頭

廿
廿

寺
上

漢
字

安政三
歲

甲陽
南里
古山
村

馬
宿
大
所